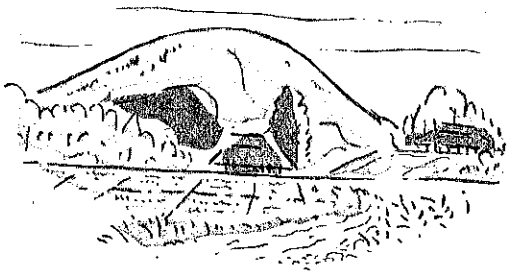
第３回　ショートレター入選作品

《最優秀賞》

タイトル　「天国のじいちゃんへ」

「人を、けなしたらいかんよ。心に塗る薬はなかっちゃけん。」じいちゃんのこの言葉、最高やね。これば多くの人の心に刻みたかね。本当やね、じいちゃん。人を、けなしたらいかん。けなしたらいかん。

ジャンル　①



《優秀賞》

タイトル　**「二級障害者の叔父を抱えながら、
私を引き取って育ててくれた祖母へ」**

社会的弱者三人で過ごした三年間、「平等」なんて絵に描いた餅だと思ってた。でもあの頃のお陰で「寄り添う気持ち・相手の幸せを願う気持ち」が人を呼ぶんだってこと、学べたよ。仕事、二十一年目に入ったからね。

ジャンル　①

《優秀賞》

タイトル　**「近所の子供たちへ」**

彼には片脚がなかったから、公園に行ったらいじめられると私は思い込んでました。でも、君たちは、ケンケンでの鬼ごっこという、対等に遊べる方法をあみだしてくれましたね。ありがとう、小さな発明家たち。

ジャンル　⑫

《佳作》

タイトル　**「息子へ」**

間違った事をした奴に注意しただけなのに殴られたり蹴られたりで傷付いた君。「負けるな。痛い目に会わせてやれ」怒り狂って叫ぶ私に　君は言ったよね。「痛いのは俺だけでいい」と。母さん負けたよ。君は宝です。

ジャンル　④

《佳作》

タイトル　**「子ども達へ」**

「お父さん、作業服を着て家を出ないで。」娘のこの言葉を聞いたときは、ショックでした。塗料で汚れた服は、家族のために一生懸命働いているという、父さんの誇りなのに。この気持ち、分かってほしいな。

ジャンル　④

《佳作》

タイトル　**「ともだちへ」**

「１６歳になったから、外国人証明書を持たなあかんねん。持ってなかったら捕まるらしいからな。」そんなこと軽々しく言ってたけど、誰がどんなこと言おうと、俺はおまえの友達やからな。

ジャンル　⑦

《佳作》

タイトル　**「母さんへ」**

小学校の授業参観、先生に祖母と間違えられた母さん。あの時は悔しかった。でも、農作業で日焼けした顔、石ころのように荒れた手が私は好きでした。その笑顔にあやされ、その手に抱かれた幸せを忘れません。

ジャンル　②

《佳作》

タイトル　**「辞めていく学校の生徒たちへ」**

先生が皆に言い続けてきた、「個人的な好き嫌いはあっても、相手の生き方や存在を否定はできない」という事、平等とは、「みんな同じ」ではなく、「違いを受け入れる事」という事を忘れないでください。さようなら。

ジャンル　⑰

《審査員特別賞》

タイトル　**「両親へ」**

お父さん、いつかあなたは、わたしに言いましたね。身体障害者と結婚してはいけないと。でも、結婚してから相手が身体障害者になってしまったら、離婚しないで助け合って頑張りなさいと。どういう意味。？

ジャンル　②

《審査員特別賞》

タイトル　**「無題」**

私は重度障害者ですが、この立場から見た「人権」とは、有って無いようなもの‥。それがこの世の現状です。

ジャンル　⑭

《入賞》

タイトル　**「お母さんへ」**

あの日からずっと１人であたしらを支えてくれたお母さん。「片親でごめん。」って言われた時、初めてお母さんの気持ちがわかった気がした。あたしは、お母さんがいてくれるだけで十分幸せやで！！

ジャンル　②

《入賞》

タイトル　**「日本の両親へ」**

『前略、私はトルコで元気にやっています。先日、近所の子供に聞かれました。「どうしてツリ目なの？どうしてそんなに鼻が低いの？」と。お姉ちゃんのお父さんとお母さんもこういう顔だからだよ、と答えておきました』

ジャンル　②

《入賞》

タイトル　**「高校一年生の息子へ」**

十七年振りに働き始めた。「意地悪な彼女がちょっと優しくなったよ。」と愚痴をこぼす私に、「世の中、思う程悪い人はいないよ。」とあなた。十六歳の言葉に耳が痛いような、同時に、あなたの成長がとても嬉しかった。

ジャンル　④

《入賞》

タイトル　「**お父さんへ**」

ずっとお父さんの職業を恥ずかしくて友達に言えませんでした。でも、定年退職の日に抱えきれない花束を抱えて帰ってきたお父さんを見て、とても誇りに思いました。お疲れ様、お父さん。ありがとう。

ジャンル　②

《入賞》

タイトル　「**おばあちゃんへ**」

まだ私が誰かわかるかなぁ？私がちっちゃい頃はおてんばな私の世話してくれてほんまにありがとう。今度は変わりに、おばあちゃんが退屈せんように一杯話するわな！

ジャンル　①

《入賞》

タイトル　「**友達へ**」

アトピーが悪化して、顔中がまっ赤に膨れてしまった時、僕は鏡を見るのが嫌だった。かゆくて、痛くて、泣きたくなった。学校へ行くのが怖かったけど、友達は何も言わなかった。いつもと同じ様に仲良くしてくれた。

ジャンル　⑦

《入賞》

タイトル　**「祖父母へ」**

夕暮れ時、祖父母の家の前を通りました。御二人は庭にしゃがんで綺麗に咲いた花を見ながら、目を細めてうなずいていましたね。九十七歳と九十六歳とは思えないほどのアツアツぶりでした。とても嬉しかったです。

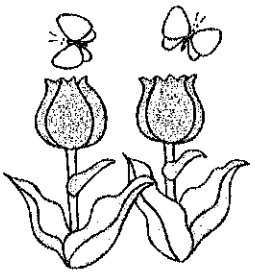
ジャンル　①

《入賞》

タイトル　**「『ごめんなさい』赤ちゃんを連れてるお母さんたちへ」**

電車が混んでいました。乳母車が入ってきました。こんな混んでる時に大きな荷物まで持って。自分に子供が出来て初めて気付きました。あの時、もう少し親切にしておけばよかったと。それが今でも気になっています。

ジャンル　⑨



《入賞》

タイトル　**「亡き祖母へ」**

女らしくしなさいとか女の子はやっちゃダメとかおばあちゃんだけは言わなかったね。「性別なんて関係ない。あなたは、あなたなんだから」この言葉が、今の私を支えています。ありがとう、おばあちゃん。

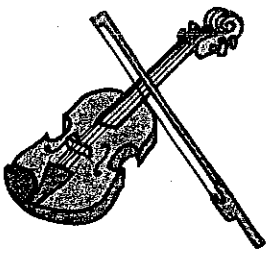
ジャンル　①

《入賞》

タイトル　**「公園へ」**

中学生の時、課外授業で公園(あるた)の清掃をしました。おそらく浮浪者の持ち物であろう、蓙や酒瓶等を「みんな、こんな大人にならん様に。」と言い放つ教師に従い、私も捨ててゆきました。今でも公園(あるた)の事が忘れられません。

ジャンル　⑲



《入選》

《入選》

タイトル　「**お父さんへ**」

嫌いだなんて膨れ面ばかり見せてゴメン。でも本当は好きだよ。体調が悪い時、薬を出すのも、紅茶を入れるのも、キツイー言で励ますのも、私が一番早いでしょ？いつだって気にかけているんだから、お父さんのこと。

ジャンル　②

《入選》

タイトル　「**あなたへ**」

家も土地も売り払い愛人と暮らしてきた二十年。離婚しなくてよかったですね。ガンを病み帰ってきたあなた。息子も孫も喜んでいます。むかしのことは水に流して一日一日を大切にゆっくり生きましょう。

ジャンル　③

《入選》

タイトル　**「お母さんへ」**

小学生の頃、クラスメイトの男子より背が高く、よくからかわれた。でもお母さんは、「背が高いのは、あなたの個性よ」そう言ってくれたよね。中学三年生の今、私はみんなの個性を探すことが楽しくなっています。

ジャンル　②

《入選》

タイトル　**「自分の娘、息子へ」**

戦争は人間同士の殺し合い。一番悲惨な人権侵害。だけどもっと身近な、例えば障害のある人や痴呆の高齢者と言うだけで、家族と離れ、遠くの施設で生活を余儀なくされている人がおられるのも、重要な人権問題なんだ。

ジャンル　④

《入選》

タイトル　**「友へ」**

娘が出戻って来て恥かしい、世間体が悪いと言った私に、子供なんて、生きているだけでいい、いるだけでいいと言った友人へ、あなたはお子さんをなくされたのでしたね。私はぜいたくだった　感謝を忘れていた。

ジャンル　⑦

《入選》

タイトル **「母さん、覚えていますか？」**

母さん、覚えていますか？授業参観で、私が本を読んだとき、緊張して吃った私にドッと皆が笑いました。その時『静かに聞かなあかんがな』と大声をあげた母さんの一声が忘れられません。

ジャンル ②

《入選》

タイトル **「声をかけよう、勇気を出して」**

「いじめるな！」と声をかけてみて下さい。「なにやってるのよ！」とおこってみて下さい。あなたのひとことで、みんなが少し変わってくれるはずなのです。みんなで人権について考えてみましょう。いじめをなくしましょう。

ジャンル ⑫

《入選》

タイトル **「友達へ」**

親指をけがした日、痛くて泣いていたら、優しく「大丈夫？」と声をかけてくれて、とてもうれしかったです。あのとき、痛さで泣いていたのに、うれし涙に変わっていました。友達の温かさを教えてくれて、ありがとう。

ジャンル ⑦

《入選》

タイトル　**「大和郡山市へ」**

郡山市は五十一歳になるそうです。郡山市、いままで「ありがとう。」そして、これからも「よろしく！」

ジャンル　⑲

《入選》

タイトル　**「近所の人へ」**

いつも私をみかけたら「おはよう。」と声をかけてくれますね。その時私は心が明るくなった気がしました。その時、私はあいさつをしたら相手も自分も心が明るくなるからあいさつをしていこうと思いました。

ジャンル　⑨

《入選》

タイトル　**「ボランティアで車椅子を押した三沢さんへ」**

フラワーセンター散歩介助のボランティアで一期一会で出会った貴女から、「何もお返しする事が出来ないから」と黒飴の 袋を渡された。一粒の飴は、今も甘く広がり私を癒してます。

ジャンル　⑭

《入選》

タイトル　「弟へ」

うつ病だからって気にするな。手が震えてもいいじゃないか。何度、仕事を首になっても気にするな。お前が悪いわけじゃない。お前は一番ひどい時期を死なずに生き延びた。それだけで、誇りの弟だ。

ジャンル　⑤

《入選》

タイトル　「兄へ」

家を思い、弟、妹を思い　長男に生まれたばかりに兄さんの肩にズシリとおおいかぶさる色々な重き荷物、大変だろうなあーと思います。でも、私達は、いつも兄さんに感謝しています。大きな存在の兄を誇りに思います。

ジャンル　⑤

《入選》

タイトル　「奏（かなで）へ」

最近ダサイ　ウサイと聞き馴れない新語を使い家族に煙たがられているあなた。難病のじいちゃんが風呂から上がると、そっと寄って来て黙って背中をふいてくれる。その時のあなたの優しい顔。ばあちゃんは大好きだよ。

ジャンル　⑥

《入選》

タイトル 「**父へ**」

親父の部屋からトイレ迄の廊下が、家は汚物街道だ。垂れ流しの川、汚物の山もある。でも、病気だもの、いいんだ、いいんだよ。親父、今日は俺が街道筋を拭くよ。チョッピリ親孝行のまねごとをさせてくれ。

ジャンル ②

《入選》

タイトル 「**両親へ**」

私が悩んでいる時にいつもはげましてくれてありがとう。反抗ばっかりで言う事を聞かないアホな娘やけど、これからも、よろしくお願いします。

ジャンル ②

《入選》

タイトル 「**教え子へ**」

君が高校を出て就職する時、在日韓国人という壁に泣かされましたね。しかし、今はヨン様に日本の女性が憧れる時代、日韓が益々仲良しになって、その中で君が元気に活躍することを期待してます。

ジャンル ⑮

《入選》

タイトル 「**大学時代の友人、淑蓮さんへ**」

卒業式の日、本名を教えてくれ、在日韓国人としての自分のことを話してくれましたね。誰よりも幸福そうに見えたあなたの内に秘めた苦しみ――私は今も忘れていません。積もる話をしましょう。会いたいです。

ジャンル ⑮

《入選》

タイトル 「**兄へ**」

お兄ちゃん、昔私達はお兄ちゃんが障害者って事で差別にあったね。辛かったけど乗り越えて、私は成長出来たよ。人権の事も考えたし、人としても大きくなった。そして人にも優しくなれたよ。お兄ちゃん、ありがとう。

ジャンル ⑤

《入選》

タイトル 「**娘へ**」

家計が苦しく、成人式なのに晴着も用意してやれません。でもあなたは「晴着は心に着るからいらないよ」と笑って言いました。ありがとう。そして、ごめんね。せめて真心こめた手料理で「おめでとう」を言わせてね。

ジャンル ④

《入選》

タイトル **「夫へ」**

「出来ないから」と言わないで！障害者たちも可能性を求めています。仕事もしたいし活動を通して個性的で魅力あるオンリーワンでありたいと願っています。差別なく、また、さりげなく接してください。

ジャンル ②⑭

《入選》

タイトル **「彼へ」**

「自分の仲間が大好きだから、何かあったら自分が守る。」人には言えない病を誰にも明かさず、仲間を大切にするあなた。それが生きる励みでもあるんだよね。大丈夫。あなたのことは、私がずっと大切に守るからね。

ジャンル ⑧

《入選》

タイトル **「おかあさんへ」**

僕の手はアトピーで人には見せたくなくて、「何で僕だけなん」と言った時おかあさんが涙をうかべて手を包んでくれた事を覚えているよ。あの時から僕は手を大切にしている。たった１つしかないかけがえのない物だから。

ジャンル ②

《入選》

タイトル「父さんへ」

ずっとひどいことを言ってしまってごめんなさい。父さんを目の前にすると全然素直になれなくて、父さんを傷つけることばかり言ってしまいました。私はこれから素直になれるよう努力するから大目に見てね。

ジャンル ②

《入選》

タイトル「父へ」

婚約を破棄された時「わしのせいか」と悲しい顔をした父、でも私は大丈夫よ。障害者の娘と分かって断わるような彼の両親、結婚してもうまくいく筈ないわ、それより父さんのことの方が心配だもの、母さんだって同じよ。

ジャンル ②

《入選》

タイトル「まりちゃんへ」

「お父さん、何でおらへんの。」て時々、まりちゃん、聞くよね。お母さんと二人の家。母子家庭、て言われてる。イヤな言を言われたり、しんどい時も、ある。でもな、お母さん強いやろ。お父さんの役もしてる。どうや？

ジャンル ④

《入選》

タイトル 「**無題**」

その頃僕らは外国からやって来た人たちを何の謂れもなく目の敵にしていた。ある日、免許証を見せ合っていて、Y君の国籍が僕らと違っているのを知った。”差別”の酷さ、下らなさ、を知った瞬間だった。

ジャンル ⑮

《入選》

タイトル 「**インドネシア人の友人へ**」

今まで、人権ってむずかしく考えすぎていたみたい。人権って思いやりを持って相手を知ろうとすることからはじまるんだよね。異なる文化を持つあなたに出会えて気づくことができたよ。どうもありがとう。

ジャンル ⑦

《入選》

タイトル 「**父へ**」

戦争に2度も招集され、青春をお国に捧げたお父さん。本当に今までよくがんばられましたね。やっと工業学校夜間に入学したのに、途中で招集され悲しかったね。でも、今も理工系に強いあなたを私は尊敬しています。

ジャンル ②

《入選》

タイトル **「裏の畑のおばあちゃんへ」**

「なんだか、これからたくさんのものを捕まえられそうな手ね。」産まれ付き左手の小指が短い娘の手をさすりながら、あなたがそう言ってくれたあの日。「これも1つの個性」と、初めて思えた私がそこにいました。

ジャンル ⑨⑭

《入選》

タイトル **「6－2へ」**

私が、背骨の矯正のことをみんなに言った時、胸が押し潰れそうだった。みんながどう言うのかとかいろいろ不安があったから。けど、「大丈夫？」という声で不安がふっ飛んだ。私と一緒にいてくれてありがとう。

ジャンル ⑦

《入選》

タイトル **「おしごとしてるおかあさん見たよ」**

わーおかあさんだ。おかあさんがおしごとしてるところ見たよ。きょうは、お休みの日だったのに、きゅうなおしごとでちょっとさみしかったけど、おかあさんがおしごとしてるの見て、かっこよかったよ。

ジャンル ②